

## 『鎌倉殿』ゆかりの地 巡り ポイント紹介

### (1) <sup>うつのみやすし ぼくふあと</sup>宇都宮辻子幕府跡 (幕府跡2)

北条政子や大江広元が亡くなり、一挙に世代交代が進んだ 1225 年に、北条泰時が中心となって幕政の中心を移転させたのがこの地。しかし、わずか10余年で若宮大路へと再度移転される。その理由は定かではないが、4代将軍 藤原頼経のまわりで不幸が続いたためともいわれている。現在は、宇都宮稻荷神社が建っている。

### (2) <sup>わかみや おおじ ぼくふあと</sup>若宮大路幕府跡 (幕府跡3)

1236 年に北条泰時が中心となって移転させて以来、幕府が滅亡するまでの約 100 年(1236～1333 年)幕政の中心であったのがこの地。現在は、鶴岡八幡宮の南方にある住宅地の一角に建立された石碑を残すのみとなっている。

### (3) <sup>ほうかいじ</sup>宝戒寺

宝戒寺は第2代執権・北条義時以降の北条屋敷跡に建てられています。後醍醐天皇は討幕を成し遂げた 1335 年、北条一族を弔い、国の人材を育成する目的で足利尊氏に宝戒寺建立を命じた。

境内には鎌倉幕府滅亡とともに自刃した第 14 代執権・北条高時を徳崇大権現として祀っています、

### (4) <sup>おおくら ぼくふあと</sup>大蔵幕府跡 (幕府跡1)

1180 年、源頼朝が八幡宮のすぐ隣に屋敷を構え、侍所や政所などの政庁を築き、頼朝、頼家、実朝の3世代、約半世紀(1180～1225 年)にわたり幕政の中心となったところ。この地は先祖の源頼義の館があった場所である。

旧跡には石碑が建てられている他、東御門や西御門があった地にも石碑が建てられている。周辺では有力御家人の屋敷跡と見られる柱穴などの遺跡も見つかっている。

### (5-1) <sup>ほっけどうあと みなもとよりともこうぼ ほうじょうよしときぼ</sup>法華堂跡(源頼朝公墓・北条義時墓)

源頼朝のお墓は大倉幕府跡の奥にある。頼朝は聖観音像を京都の清水寺から頂き平素から携えていた。これを本尊とした持仏堂を建立し、頼朝没後は菩提寺となって法華堂と呼ばれた。お墓の手前の頼朝をお祀りする白幡神社は法華堂跡地に明治になって建てられている。

頼朝の死から 25 年後の 1224 年に北条義時が死去。義時のお墓も法華堂跡地にある。

### (5-2) <sup>みうらいちぞく</sup>三浦一族やぐら

三浦一族は源頼朝の挙兵に早くから応じ、幕府成立に尽力した。頼朝亡き後、北条氏は有力御家人を次々に滅ぼし、三浦氏はそれに協力し生き残るが北条氏と安達氏に戦いを仕掛けられ宝治合戦となります。館を襲撃された三浦泰村を三浦一族が駆けつけますが泰村は戦う気がなく、一族郎党 500 名余りが頼朝の墓がある法華堂で自刃した。

### (6) <sup>つるがおかいはちまんぐう だんかづら</sup>鶴岡八幡宮・段葛

源頼朝の5代前の先祖・河内源氏の源頼義が京都の岩清水八幡宮から御祭神を勧請して、由比ヶ浜材木座のあたりにお祀りしたのが鶴岡八幡宮の始まりとされる。そして、地名から鶴岡若宮と名付けられた。

それを現在の地に移したのが源頼朝。時は、平氏討伐の兵をあげた 1180 年である。以降、鶴岡八幡宮は源氏の氏神であり、武運の神として厚い信仰の対象となった。また、頼朝は海岸から社殿で続く約 2km に亘る参道を築かせた。これが段葛で、妻・政子の安産を祈願してつくらせたものといわれている。

~~~~~

## (7) <sup>とうしょうじあと</sup>東勝寺跡・北条高時腹切りやぐら

このあたりには第3代執権・北条泰時が建立した北条氏の菩提寺・東勝寺がありました。1333年、南下する新田義貞軍の進攻を受け、北条氏ら幕府軍は小手指、久米川、分倍河原、関戸などで合戦を重ねるが、膨れ上がる新田軍の勢いにはかなわず、洲崎合戦の後、鎌倉の切通しを封鎖して戦います。新田軍は稲村ヶ崎をまわって鎌倉に攻め入り、北条氏は東勝寺に追い詰められました。

北条一族と家臣 870 余人はこの寺で自害し 140 年あまり続いた鎌倉幕府は終わりを告げました。

現在の東勝寺は跡のみ残し、裏手に北条氏一族の腹切りやぐらがあります、

## (8) <sup>みょうほんじ</sup>妙本寺

源頼朝の乳母を務めた比企尼は、頼朝が流人になってからは武蔵国比企郡に夫と下り、頼朝に支援を続けた。

比企尼の養子の比企能員は第2代将軍・源頼家に娘の若狭局を嫁がせ厚い信頼を得ます。

しかし、北条氏と対立して1203年比企谷(ひきがやつ)にあった屋敷に追い詰められ、火をかけて一族は滅亡します。(比企能員の変) 京にいたため生き残った能員の末子・能本が日蓮に帰依し、屋敷跡に法華堂を建立したことが妙本寺のはじまりです。比企一族供養塔や若狭局が身を投げたという「蛇苦止(じゃくし)の井」、頼家の子・一幡(いちまん)の袖塚がある静かなお寺です。

## (9) <sup>らいこうじ</sup>来迎寺

源頼朝が三浦義明例を弔うために真言宗能蔵寺として建立。頼朝の死後、時宗来迎寺となる。

三浦義明の五輪塔墓と木造、三浦一族の墓、100余騎の五輪塔などがある、

## (10) <sup>ゆいわかみや</sup>由比若宮

前九年の役で奥州を鎮定した源頼義が 1063 年に報賽の意を込め、源氏の守り神である石清水八幡宮を由比郷に潜かに勧請した事に始まる。鶴岡八幡宮の元となったことから元八幡宮とも称される。

## (11) <sup>わだづか</sup>和田塚

和田合戦で和田義盛らの一族が戦没した地であり一族の墓と伝えられている。元は古墳時代につくられた墳墓だったと考えられている。



宇都宮辻子幕府跡碑



若宮大路幕府跡碑



宝戒寺



大藏幕府跡碑



法華堂跡碑



源頼朝公の墓



鶴岡八幡宮



比企一族の墓(妙本寺)



三浦一族の墓(来迎寺)